

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 2月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300526
法人名	有限会社鹿屋介護サービスセンター
事業所名	グループホーム田園
所在地	鹿児島県鹿屋市祓川町5369-1 (電話) 0994-40-3151
自己評価作成日	平成27年11月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りの環境は田園地域で、主要道路から離れており、車の音もほとんどなく静かな環境である。施設内の敷地も広くゆったりしており、小さいながらも畑もあり、野菜や果物、お花の栽培を楽しむことができる。建物は軽量鉄骨造りでしっかりとしており玄関からホール浴室、各居室は全てバリアフリーになっており、車いすでの移動もゆったりと出来る。災害時の防火設備はスプリンクラーを設置して、停電時も30分間は非常灯がつき夜間も安全に避難出来る。また非常ベルも煙感知器と連動しており、ベルがなると自動的に消防署と近くに住む地元消防団員の携帯と職員の携帯電話に連絡される。職員は全員採用時の半年以内に消防署の救急救命の講習を受講している。各居室は7畳あり入所時に馴染みの家具や仏壇仏具神棚などおける。町内会に入っており地域の行事や祭りなどへの参加や、地域の方々の施設への棒踊りの訪問披露や保育園との交流などがある。又、毎月遠足や季節のお花見など外でのレクリエーション活動をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<理念について>

・高齢化や状況の変化に伴い、過去に理念を作り変えた経緯があり、現在は尊厳ある生活や地域住民との交流、地域に愛され貢献できる施設を目指しており、理念を毎日唱和することで意識付けを図り、ケアへの実践につなげている。

<地域とのつながり>

・自治会に加入し、運営推進会議に自治会長も出席していることから、地域行事の情報は把握できており、無形文化財である八月踊りやグランドゴルフ大会等の交流を行っている。
・また、保育園児との交流や小学校の運動会の見学のほか、馴染みの店での買い物や散歩時に近隣者と挨拶や会話をするなど日常的に交流を図っている。

<介護計画の作成>

・現状に即した介護計画になっているか、毎月モニタリングを実施することで把握しており、現状と計画が異なった場合は、本人や家族、かかりつけ医とも連携して情報を収集し職員全員で介護計画を見直している。
・また、本人の思いや意向を日常の言動等から汲み取るとともに家族の要望も把握した上で介護計画に組み込み、担当者会議を開催し同意を得て、交付している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日朝の申し送りの時にその日の出勤職員全員で理念の唱和をして理念実践の確認をしている。理念は玄関とホールに掲げて来客にも表示している。	地域に愛され貢献できる施設という言葉を含む理念は、職員全員で考えたものであり、事務所や玄関、ホールに掲げ、毎日唱和することで意識付けを図っている。過去に理念を見直した経緯があり、現在は特に地域交流を意識した活動の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、八月踊りや小学校の運動会の見学、棒踊りの施設訪問、近所の保育園児の施設訪問、また畠の耕運作業の近所の方の手伝いなどいただいている。	保育園児との交流や小学校の運動会見学、市の無形文化財である八月踊りに招かれ参加している。また、日常的に散歩やドライブがてらの買い物など利用者の要望により一緒に出かけ地域の方々との会話をするほか、果物や野菜などの差し入れ等も多く、地域住民と交流を図る機会が多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	近所の方々の自由な見学や入所の相談等にいつでも応じている。近所の方で入所されている方もおられる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催して、町内会長住民代表、民生委員、消防団員他施設の管理者等自施設以外との交流や外部評価報告を通して貴重な意見を頂きサービス向上に活かしている。	会議には家族代表や町内会長、民生委員、消防団や高齢福祉課職員のほか、近隣グループホームの職員も参加して意見交換を行い連携を図っている。また、会議では事業所の活動内容や外部評価の報告、消防団や町内会長からの連絡事項の確認やサービス向上に向けた意見交換などが積極的に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは普段から運営推進会議や市の主催の研修などに参加してアドバイスをいただいたり相談をしたり協力関係を築いている。	行政職員とは運営推進会議や認定申請、相談事の時に訪問して助言をもらっており、福祉政策課の職員とも日頃から連携を図っている。また、事業所の利用状況については、随時報告しており、行政から入居に関する問い合わせを受けたり、利用に向けた調整を行うなど密に連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての外部研修、施設内研修を毎年実施して、拘束しないケアについて職員の意識向上を図り、センサーなどを使い拘束しないケアに取り組んでいる。	年2回外部研修に参加しており、研修に参加した職員は管理者に報告書を提出するとともに職員会議時に報告することで情報の共有を図っている。現在、利用者の高齢化とともに車椅子を利用する方が増えたため、車椅子から滑り落ちないように姿勢を改めたり、様子観察を徹底させている。また、7月に「虐待の芽チェックリスト」を用いて職員会議で話し合うなど意識付けと振り返り作業を行い点検し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年外部研修への参加や施設内研修を実施して虐待とはどういうことか、職員一同勉強して虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護についての外部研修に管理者や職員は毎回参加して理解を図っている。現在はまだ必要な方はおられない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書は必ず、本人や家族の前で読み上げて説明している。質問などにもお答えして、納得したうえで契約をしている。改定事項はその都度同意書で同意をえている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者は普段から何でも言えるように雰囲気づくりをして要望を聞けるようにしている。家族会では家族同士で話し合う場を作り、アンケートなどを使い意見など運営やケアに反映している。	日頃の様子や会話から思いや意向を汲み取り、家族からも来所時等に要望はないか尋ねるようにしている。多くの方に参加してもらえるよう演奏会や日本舞踊等の行事と併せて年2回家族会を開催し意見をもらっている。また、遠方の家族には近況報告と毎月個別に作成している新聞を送付することで事業所での様子を報告し要望や意見を確認している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は毎月の職員会議や朝夕の申し送りのミーティングで職員の意見提案を聞く機会を設けて運営に反映できるようにしている。	職員の意見は朝夕の申し送り時や職員会議で聞き取るようにし、個別の相談にもその都度応じている。また、日頃より話しやすい環境になるよう新年会や忘年会のほか、居酒屋での親睦等交流を図っている。勤務表は必ず職員の希望を確認してから作成するなど気持ちよく働ける環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得に応じた給与にして、職員の勉強意欲や勤務状況などを給与に反映している。また勤務表は各自の希望に配慮して作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員には希望の外部研修を受けられるようにしている。また、施設の研修を職員会議を利用して研修の機会を設けている。。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議は他施設と相互訪問して、他との情報の共有をしている。また、同業者懇親会などにも参加させてサービス向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースを第一に考えて、本人の要望をに沿ったケアをしながら、安全安心な生活をできるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り入所時に本人の生活歴の聞き取りをして本人の価値観や生活習慣を把握し、本人様が安全安心な生活が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設として出来ることを伝えて、ご家族の協力出来ることも理解して柔軟な対応をしながら介護支援をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ること出来ないことを把握して、本人の了解のもと出来るお手伝いの役割を持ってもらいやる気を引き出し、生活出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に近況報告をして、遠くの家族にも状況把握をしてもらい。気になる時は来てもらって、共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の訪問や馴染みのお店での買い物などのお手伝い、外食などの職員の同行、お墓参りの支援を通じて、馴染みの人や場との関係を持つようにしている。	入居前の馴染みの関係については、今後の生活に対する要望等も含めてアセスメントシートに記録しており、友人や知人らと自由に交流できるよう利用者個人の希望する外出先に家族と職員が協力し合っている。また、電話の取り次ぎや手紙を代筆するなど、個人の思いを大切に支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全ての人が相性が良いとは限らないので、相性の良い人、悪い人などを把握して、仲の良い人同士を隣同士にして、そうでない人は距離を保ち、気持ち良く過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方が、再入所したい時や出来るだけ優先して入所に応じてその他の相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いをうまく伝えられない方も日頃の介護を通して希望や意向を把握したり、家族や友人の情報提供を伺いながらケアプランに反映し本人本位の生活出来るように支援している。	思いや暮らし方の希望を本人、家族から聞き取るとともに、うまく表現できない場合は表情や仕草などからも汲み取るようにしている。また、入居時に聞き取ったアセスメント情報に目を通し、入居後に把握した情報は申し送りノートを活用して情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の時に本人の生活習慣や生活環境を家族や本人から聞いて把握し、馴染みの生活出来るように支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	したいことやしたくないことなどまた、毎日変わる本人の意向や体調などにも注意して本人の生活力に沿った支援出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	通常6ヶ月ごとに、作成しているが、変化があれば、毎月のモニタリング評価や毎日の介護実施状況を職員全員で話し合い、家族の意見や本人の意向の把握などを通して、現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングを実施することで利用者の状態の変化を見落とさないよう努めており、職員間での話し合いの下、6か月毎に介護計画を立てている。また、利用者や家族の意向をきちんと把握した上でプランに組み込み、受診時や更新時に医師から確認した内容も介護計画に組み込むことで、関係者全員の意見が反映された介護計画となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を毎日行い、変化あればすぐに職員間で話し合い現状を職員全員で共有して、必要なら介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の希望など、また家族の出来ないことなど把握して、職員同行のお買い物や外食、外出など柔軟なサービスを通して支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や行事への参加、ボランティアの施設訪問を通して地域に溶け込んだ豊かな暮らしを楽しむ生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望にそった病院での受診、また、家族の希望での訪問医療など適切な医療が受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医をアセスメントシートに記録し、入居後も本人の希望する病院を受診できるよう家族と職員が連携して対応している。最近を受診時の待ち時間の大変さや緊急時の対応がスムーズにいくよう訪問医療を受ける利用者が増えてきた。受診の内容は「病院受診記録簿」に記入して申し送り時に確認し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は介護職員の意見など聞きながら、情報共有して看護が必要な時は何時でも駆けつけて、適切な医療看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、管理者は情報提供書を用意提供して、適切な治療が出来るように情報交換相談している。また、病院とは協力医療病院として協定を結んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期は施設では十分な対応が取れないことを説明して、家族の同意を得ている。また状況の変化に伴いその都度話し合い、主治医や看護ステーションとも連携して支援していけるように取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合における指針」で、現状では終末期の対応が十分にとれないことを説明し同意を得ているが、いずれは重度化や終末期にも対応できるようにと考えている。事業所内で看取りに関する勉強会を実施したり、地区での勉強会にも参加している。看取りに関しては、行政や医師からも要望があることや、事業所の特性上、職員も必要性を十分に感じ理解しているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救命救急法を職員全員入職時に消防署の講習で受ける。また、救急車の呼び方や情報提供書を準備して対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署の指導のもと地域消防団と合同で避難訓練をしている。火災の時は非常ベルとともにスプリンクラーが作動して消防署、近所の消防団員、職員に自動通報される。停電時も灯りは30分間は自動点灯する。</p>	<p>夜間想定を含む災害訓練を年2回実施しており、地域住民に避難誘導をお願いするなど地域の協力を得ることができた。火災の際は、煙を感知した時点で全職員、消防団に自動通報されるほか、職員全員が救命救急法の研修を受講するなど万全の態勢を整えている。備蓄については、食料や飲料水等を約3日分確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の人格や生活歴や習慣を尊重し、尊厳あるある生活が出来るようにプライバシーに配慮し、トイレ誘導の声掛けなどしている。個人情報保護の取扱いにも最新の注意をしている。	トイレ誘導時には他者に聞こえないようさり気なく声をかけるなど日頃からプライバシーを損ねない言葉や声かけに気を配っている。市内の同事業所でつくる「介護事業所連絡協議会」が主催する研修会には毎月参加しており、11月には個人情報の取り扱いについて学ぶ機会があり、職員会議でも研修の内容を振り返り確認し合った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活が出来るように思いや希望を尊重して、自己決定出来ることは優先して希望に添える支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や外出、お墓参りなど本人の希望やペースを大切に、寄り添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服や化粧品の購入のお手伝い、髪染めなど支援その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で採れた旬の野菜や果物などを食べたり、好みなどの把握をして、別メニューを用意したり、片付けのお手伝いなどや野菜の下拵えなどしてもらっている。	献立は冷蔵庫内にあるものや利用者の食べたいもののリクエストに合わせて当日メニューを決めている。調理にはつわのすじ剥きなどの下ごしらえや梅干し作り、らっきょう漬けなど季節の食材を使った保存食作りに参加している。また、お弁当持参で出かけたり、外食を楽しむ機会をつくり気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶を飲まれない方などおられ、ヤクルトやコーヒー、ジュース、エンシュアリキッド栄養補助食品等活用して、個人に合わせた状態や摂取方法など工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはその人の自立度合いに応じて支援している。入れ歯の方などは夜は必ず外して消毒して朝にまたつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	バイタルチェック表により一人一人の排泄パターンの把握を図り、適切な声掛けをし、トイレでの排泄を支援している。昼間はオムツをしないでもよいように支援している。	個人毎のバイタルチェック表にバイタルや排泄のほか、食事・水分摂取量・内服状況も記録しており、状態に変化がみられた場合には速やかにかかりつけ医に連絡し、指示を仰いでいる。夜間ポータブルトイレを使う利用者が日中はなるべくトイレで排泄するよう伝え理解して頂いている。また、これら排泄の支援は、介護計画に組み込み反映させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	動きの少ない車いす生活の方など、繊維質の野菜や芋、ゼリーなどの摂取、ラジオ体操やリハビリ体操の運動をしてもらい、便秘の方は医師の指示のもと緩下剤使用をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴日はあるが、その人の希望があれば入浴でき、また好みのシャンプーやせっけんなども利用されている。入浴順番も工夫して、日によって変えている。	週3回の入浴日以外でも入浴希望がある場合や排泄後の衛生にも配慮していつでも入浴できる環境にある。また、入浴が楽しめるようゆず湯やバスクリンを利用することもあり利用者に喜ばれている。入浴拒否の場合には時間やスタッフを変更する等の対応をしている。入浴後はお茶のほか、ジュースや珈琲カフェオレ等好みのものを飲んでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転などもその人らしさととらえ、その人のペースを大切に安心して生活が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は目的や、副作用、用法などを把握して、服薬は全て職員が管理して、誤薬や飲み忘れのないようにし、服薬後の変化などの観察をして、変化は医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や意向に合った生活が出来るように野菜作り花栽培パチンコやランドゴルフ、買い物、外出など、また嗜好品のコーヒーやビールなど楽しく生活出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常の散歩や毎月1回のお花見や遠足へ出かけたり、本人の希望の夕食、買い物、パチンコ等友人、家族、職員などが協力して外出している。	屋内ばかりではストレスにつながるため、花見やソーメン流し、みかん狩り、八月踊り見物のほか、月1回はお弁当を持参して出かけるなど外出の機会を設けている。また、毎週買い物に出かける方に職員が付き添ったり、友人の送迎でパチンコに出かける方がいるなど個別の外出を積極的に支援している。外出の際は見守りや介護等安全に配慮する必要があることから、職員を多めに配置して出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は、財布を持ってもらい、自分の好きなものを買ったり、職員が代わりに希望の品物を買に行き支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙の代筆やお電話をかけたい時に電話番号を押してあげたり、本人の希望に添った連絡が取れるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはゆったりと広く、風通しも良く外も眺められる。それぞれにプライバシーを保てる空間があり、利用者同士のいさかいがあっても少ない。玄関から浴室各部屋全てバリアフリーになっているのんびりと穏やかに過ごせる。	玄関からホール、浴室やトイレ等バリアフリーの造りとなっているため大変歩きやすく、また、車椅子操作も安心して行えるようになっている。ホールには十分な採光の下、季節の作品やクリスマスツリーなどの季節毎の飾り付けが施されるほか、行事の写真なども飾られ明るい雰囲気を感じられる。浴室は中央に浴槽が配置されているため出入りや介助がしやすい。浴室と脱衣場との温度差にも気を配り、エアコンで快適な室温に保っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う者同士が隣り合うようにしており、一人になりたい人はテレビの前のソファのスペースでゆっくりと過ごせる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染み久しんだ家具や仏壇、写真、家族の思い出のものなど本人が居心地良く過ごせるように支援している。</p>	<p>エアコンやベッド、クローゼット、洗面台、タンスが備え付けられており、寝具は居心地よく過ごせるよう馴染みのものを持参してもらっている。居室の掃除は毎日職員が行っており、これからの季節はこまめな換気や加湿器による感染症予防など、各居室の空調に気を配り対応している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関からトイレやホール台所、ふろ場すべてバリアフリーになっている。また危険のないようにすべて見渡せるように配慮されて、職員がすぐにアクシデントに気付けるようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない